

施工方法と施工上の注意

一、施工工具は

- 1、推奨工具の使用が不可欠です。

ドライバードリル(回転専用トルク調整機能付き) 下記は2020.03現在を基にしています。

コードレスドライバードリル
HiKOKI(旧日立工機)
DS18DBL2
18V
0~1,800回転



充電式ドライバードリル
マキタ
DF484D
18V
0~2,000回転



- 2、インパクトレンチ・インパクトドリルは、鉄下地には所要の穴開け及び締結が出来ません。
⇒ネジ破断・リセス及びビットの破損を招きます。

二、普及品及び高耐力品にはナット可動式とナット固定式があります。

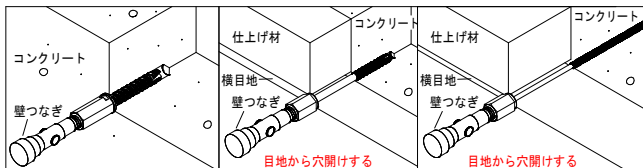
⇒適応下地・適応壁厚(締結下地厚さを含む)で品番を選択します。

- 1、外壁材施工時と同じ状態で下地に締結を行います。
⇒目地又はジョイント部から下地に締結するのが基本です。
- 2、ALCパネル・ECP(押出成形セメント板)等で鉄下地の裏にコンクリートの打設がある場合
⇒締結出来ません。ツイン・3WAYタイプを使用して下さい。

三、外壁材に直接締結するツイン・3WAY・プレコンは、必要な強度を得るため2本(ツイン)、2本・3本・4本(3WAY)締結用があります。(プレコンを除く) ⇒カタログ記載の適応下地・適応壁厚で品番を選択します。

- 1、ALCパネルの場合は、下穴不要です。
- 2、ECPの場合は、別売りECP専用ドリル(ECPD-H51)で中空部分に下穴を開けます。
⇒不使用の場合は、所要の強度が得られないため受注致しかねます。
- 3、コンクリートの場合は、下穴径×深さ目安の穴開けが必要です。
⇒推奨工具はドライバードリル(回転専用トルク調整機能付き)又はインパクトドライバーです。

■施工例



使用上の注意

GSアシバツナギ プレコン

品番	適応壁厚 (mm)	下穴径 (mm)	ねじ込み深さ (mm)	最大引張強度 N (kgf)
ABC6.0×105 プレコン	55	φ5.3	40	9,320 (950)
ABC6.0×180 プレコン	130			
ABC8.5×60 プレコン	10	φ7.0	45	13,525(1,379)
ABC8.5×100 プレコン	50			
AFC12.5×70 プレコン	/	φ11.0	70	27,175(2,771)
AFC10.5×65 プレコン		φ9.0	50	16,775(1,711)
AFC10.5×80 プレコン				
AFC10.5×100 プレコン				
AFC10.5×135 プレコン				

(注)試験体はJIS A 5308に準拠したレディーミクストコンクリート
 普通コンクリート:300×300×150 コンクリート圧縮強度: 24.0N/mm²(245kgf/cm²)

推力 10Kgf~20Kgf

但し、工具に過大な推力を加えると、回転にブレーキを掛けねじ立ての能率低下を招きます。

- ①(社)仮設工業会編の足場工事マニュアルに準じて、十分な安全率を考慮して下さい。
- ①許容荷重=最大引張強度÷安全率(法令の定め・施工現場の環境を考慮し安全率は4.0以上を目安にして下さい)
- ①外壁材とアシバツナギのナット部は、過剰な締め付けによるトラブルを防ぐため僅かな隙間を設けて締結して下さい。
- ①機能的には引張強度≠圧縮強度ですが、(社)仮設工業会編の足場工事マニュアル記載の通り、壁当てジャッキの使用は施工案件毎に検討対応が必要です。
- ①下穴径は厳守して下さい。(下穴径は過少、過大では最大引張強度の保証は出来ません。)
- ①穿孔に際しては、穴内の切粉除去をして下さい。
- ①ABC6.0は付属の専用ビットの四角No.3側を、ABC8.5は付属の専用ビットのトルクスT-30を必ず使用して下さい。
- ①AFCは対辺17mmのソケットビットを使用して下さい。
- ①ねじ込み途中で抵抗が大きい場合は、僅かに逆転させて再度ねじ込んで下さい。
- ①壁つなぎの雄ネジ部に傷や錆び等のままで接続しないで下さい。
- ①取り外し後の再使用は避けて下さい。

■適所に各々には、下穴処理ビスがあります。(プレコンを除く)



普及品 AWS・AFS-76
左 ユニクロ 右 ステンめっき



高耐力品 SM・SF8×78
左 ユニクロ 右 ステンめっき



ツイン ATE-45・ATA-90
左 ステンめっき 右 セラミック

イイファス株式会社/株式会社シグテックファスナー

詳しい情報はこちらから <http://www.iifas.jp> Email:sales@iifas.jp

NO-000228